

# 野村未来トレンド発見ファンド Aコース(為替ヘッジあり) / Bコース(為替ヘッジなし)

## 愛称：先見の明

追加型投信 / 内外 / 株式

### 交付運用報告書

Aコース 第3期(決算日2019年11月14日)

Bコース 第4期(決算日2019年11月14日)

作成対象期間(2018年11月15日～2019年11月14日)

#### <Aコース>

第3期末(2019年11月14日)	
基準価額	12,496円
純資産総額	5,308百万円
第3期	
騰落率	11.8%
分配金(税込み)合計	200円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

#### <Bコース>

第4期末(2019年11月14日)	
基準価額	13,385円
純資産総額	12,773百万円
第4期	
騰落率	10.1%
分配金(税込み)合計	300円

#### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、グローバル・マルチテーマザーファンド受益証券への投資を通じて、主として新興国を含む世界各国の株式(DR(預託証券)を含みます。)に実質的に投資を行い、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。

ここに、当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)は、野村アセットマネジメントのホームページで閲覧・ダウンロードしていただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記ホームページを開く

⇒「ファンド検索」にファンド名を入力しファンドを選択

⇒ファンド詳細ページから「運用報告書(全体版)」を選択

### 野村アセットマネジメント

東京都中央区日本橋1-12-1



サポートダイヤル 0120-753104

〈受付時間〉 営業日の午前9時～午後5時

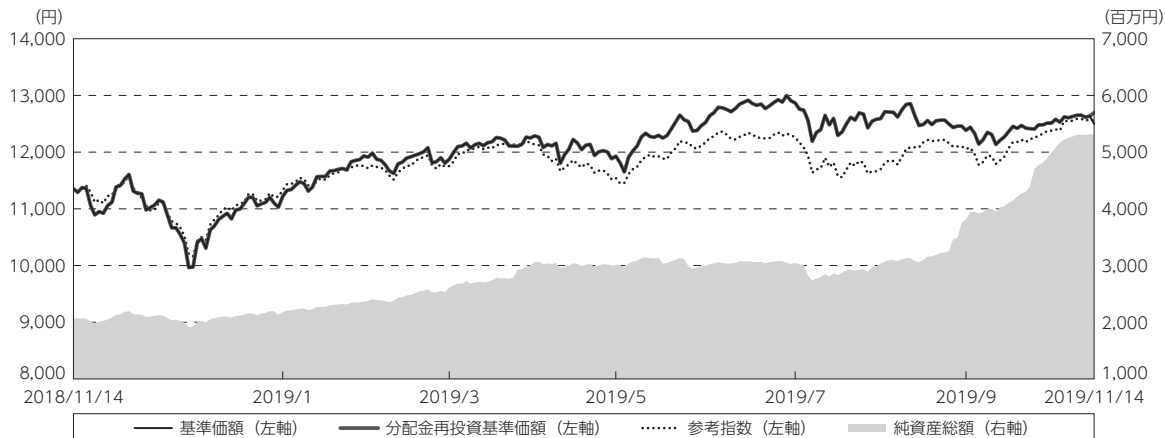
ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

## 〈Aコース〉

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2018年11月15日～2019年11月14日)



期 首：11,354円

期 末：12,496円 (既払分配金(税込み)：200円)

騰落率： 11.8% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2018年11月14日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 参考指数は、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(税引後配当込み・円ベース・為替ヘッジあり)です。詳細は4ページをご参照ください。参考指数は、作成期首(2018年11月14日)の値が基準価額と同一となるように計算しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

- (下 落) 米中貿易摩擦懸念が再燃したこと、世界経済の動向や今後のFRB(米連邦準備制度理事会)の金融政策に対して不透明感が高まったこと
- (上 昇) 市場予想を上回る米雇用統計の発表や、良好な2018年10-12月期の米企業決算が発表されたこと、中国の景気対策期待が高まったこと、FRBが金融引き締めに慎重な姿勢を表明したこと、トランプ米大統領が中国からの一部輸入品に対する関税の引き上げ延期を表明したこと
- (下 落) 米中貿易摩擦の長期化や世界景気の減速などに対する警戒感が高まったこと
- (上 昇) 米中貿易協議の再開への期待が高まったこと、対メキシコ関税発動が見送られたこと、FRBの利下げ観測が高まったこと、2019年4-6月期の米企業決算や実質GDP(国内総生産)成長率が市場予想を上回ったこと
- (横ばい) トランプ米大統領による対中追加関税の発動表明を受けて米中貿易摩擦の激化が懸念されたこと、9月の米ISM製造業景気指数が市場予想を下回ったこと、一方、米中貿易交渉の進展が期待されたこと、7-9月期の米企業決算が市場予想を上回ったこと

## 1万口当たりの費用明細

(2018年11月15日～2019年11月14日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 205	% 1.705	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	( 99)	(0.825)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
(販売会社)	( 99)	(0.825)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
(受託会社)	( 7)	(0.055)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売買委託手数料	12	0.099	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	( 11)	(0.096)	
(投資信託証券)	( 0)	(0.003)	
(c) 有価証券取引税	3	0.022	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株 式)	( 2)	(0.019)	
(投資信託証券)	( 0)	(0.002)	
(d) その他費用	3	0.021	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	( 2)	(0.018)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	( 0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	( 0)	(0.000)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	223	1.847	
期中の平均基準価額は、12,011円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

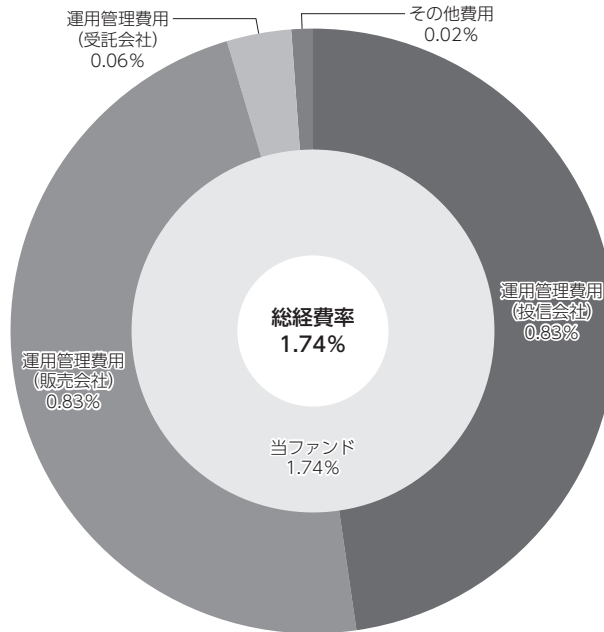
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## (参考情報)

## ○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.74%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2014年11月14日～2019年11月14日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。  
 (注) 当ファンドの設定日は2017年6月2日です。

	2017年6月2日 設定日	2017年11月14日 決算日	2018年11月14日 決算日	2019年11月14日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,598	11,354	12,496
期間分配金合計(税込み) (円)	—	50	100	200
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	6.5	8.1	11.8
参考指数騰落率 (%)	—	6.5	△ 2.5	10.6
純資産総額 (百万円)	10	789	2,064	5,308

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。  
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。  
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2017年11月14日の騰落率は設定当初との比較です。

\* 参考指数 (= 「MSCIオール・カンTRY・ワールド・インデックス (税引後配当込み・円ベース・為替ヘッジあり)」) は、MSCI ACWI (All Country World Index) Index (税引後配当込み・ドルベース) をもとに、ヘッジコストを考慮して円換算したものです。  
 \* MSCI ACWI (All Country World Index) Index (税引後配当込み・ドルベース) は、MSCIが開発した指数で、同指数の著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(出所) MSCI

**投資環境**

(2018年11月15日～2019年11月14日)

世界の株式市場は、当期初、FRBの早期利上げ打ち止め観測などから上昇して始まったものの、2018年12月上旬に米中貿易摩擦懸念が再燃したことや、米国の利上げペースが市場予想ほど鈍化しないとの観測などから下落に転じました。しかし、2019年に入り、市場予想を上回る米雇用統計が発表されたことや、米中貿易協議の進展への期待が高まったこと、2018年10-12月期の米企業決算が堅調な滑り出しとなったことなどを背景に上昇に転じました。2月以降も対中関税の引き上げ延期やFOMC（米連邦公開市場委員会）で年内利上げ見送りの方針が示されたことなどが支援材料となり上値を追う展開となりました。その後、5月には米中貿易摩擦の長期化や世界景気の減速への懸念などから下落する場面もありましたが、6月には、米中貿易協議の再開への期待が高まったことや、対メキシコ関税発動が見送られたことなどを背景に再び上昇しました。その後も、2019年4-6月期の米企業決算や実質GDP成長率が市場予想を上回ったことなどから上昇基調が継続しました。しかし、8月上旬にトランプ米大統領による対中追加関税の発動表明などを受けて米中貿易摩擦の激化が懸念されたことなどから下落に転じ、その後は、米中貿易協議の進展が期待されたことや、FRBによる追加利下げなどが好感され上昇する場面もありましたが、9月の米ISM製造業景気指数やユーロ圏製造業PMI（購買担当者景気指数）の低下を受けて世界景気の減速への懸念が高まったことなどから一進一退の動きとなりました。10月中旬より、当期末にかけては、米中貿易協議で部分合意に達したことや、堅調な7-9月期の米企業決算が発表されたことなどを背景に上昇基調となり、当期において世界の株式市場は上昇しました。

**当ファンドのポートフォリオ**

(2018年11月15日～2019年11月14日)

[グローバル・マルチテーマ マザーファンド]

## ・株式組入比率

期を通じておおむね高位を維持しました。

## ・期中の主な動き

- (1) 業種別配分につきましては、ITセクターなどをオーバーウェイト（参考指数に比べ高めの投資比率）としました。一方、金融セクターなどをアンダーウェイト（参考指数に比べ低めの投資比率）としました。
- (2) テーマ別配分につきましては、「消費の多様化」や「AI（人工知能）・クラウドサービス」などのテーマに関連する銘柄の投資比率を期中平均で高めにしました。前期からの変化としては、「消費の多様化」などのテーマに関連する銘柄の投資比率を引き上げました。
- (3) 為替につきましては、ヘッジ（為替の売り予約）はしておりません。

## [野村未来トレンド発見ファンド Aコース (為替ヘッジあり)]

・主要投資対象である [グローバル・マルチテーマ マザーファンド] 受益証券を期を通じておおむね高位に組み入れました。

### ・為替ヘッジ

当ファンドの運用の基本方針に従い、実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジ (先進国通貨等による代替ヘッジを含みます。) により為替変動リスクの低減を図りました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2018年11月15日～2019年11月14日)

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

参考指数としているMSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス (税引後配当込み・円ベース・為替ヘッジあり) の騰落率が10.6%の上昇となったのに対して、基準価額は11.8%の上昇となりました。

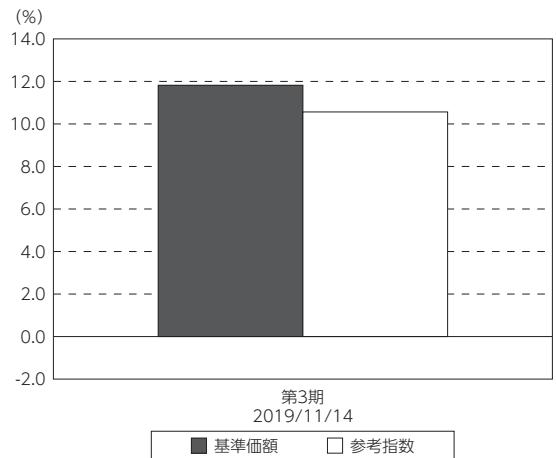
### (主なプラス要因)

- ①株価騰落率が参考指数を上回ったITセクターをオーバーウェイトとしていたこと
- ②世界的な非現金決済の拡大や新興国における消費の拡大などを背景に、長期的な成長を期待できると判断しオーバーウェイトとしていた米国のソフトウェア株や情報技術サービス株などの株価騰落率が参考指数を上回ったこと

### (主なマイナス要因)

- ①株価騰落率が参考指数を下回ったヘルスケアセクターをオーバーウェイトとしていたこと
- ②世界的な高齢化の進展を背景に中長期的な成長が期待でき、継続して業界平均を上回る収益力を達成していることからオーバーウェイトとしていた米国のヘルスケア・プロバイダー/ヘルスケア・サービス株などの株価騰落率が参考指数を下回ったこと

基準価額と参考指数の対比 (期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) 参考指数は、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス (税引後配当込み・円ベース・為替ヘッジあり) です。

## 分配金

(2018年11月15日～2019年11月14日)

- (1) 収益分配金については、基準価額水準等を勘案し、1万口当たり200円とさせていただきます。  
 (2) 留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。

### ○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税込み)

項 目	第3期	
	2018年11月15日～2019年11月14日	
当期分配金	200	
(対基準価額比率)	1.575%	
当期の収益	200	
当期の収益以外	-	
翌期繰越分配対象額	2,496	

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### [グローバル・マルチテーマ マザーファンド]

#### ・投資環境

米国経済は、7-9月期の実質GDP成長率が前期比年率+1.9%と、市場予想を上回り底堅さを見せました。個人消費が引き続き堅調であることに加え、金利低下を受けて住宅投資が前期比でプラス成長に転じています。米中貿易協議については、不透明感の払拭には時間を要すると見られます。10月末に3会合連続の利下げを決めたFRBは今後も慎重に金融政策を運営すると見込まれます。

#### ・運用方針

グローバルな視点で投資魅力のある中長期の成長テーマを複数選定し、関連する銘柄群を中心に成長性に着目した銘柄選択を行ないます。成長テーマの選定は、「新たな価値の創造」、「新興国へのトレンドの広まり」、「社会構造の変化」の観点から選定することを基本とします。成長テーマは必要に応じて入れ替えを行ないます。また、市場環境やマクロ経済動向も加味し、組入銘柄および組入比率、その結果としての各成長テーマ毎の投資比率を決定します。

AI、ロボット、IoT（モノのインターネット）、自動運転、クラウドなど高い成長が期待されるテーマや、アウトソーシング、消費、教育など安定的な成長が期待される成長テーマにも注目してまいります。今後も政治情勢や金利動向なども考慮しつつ、「中長期成長期待への積極的投資」と「短期的な株式市場環境への対応」をバランスよく運用してまいります。



## [野村未来トレンド発見ファンド Aコース（為替ヘッジあり）]

主要投資対象である [グローバル・マルチテーマ マザーファンド] 受益証券を高位に組み入れ、実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジ（先進国通貨等による代替ヘッジを含みます。）により為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

今後とも、引き続きご愛顧を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

## お知らせ

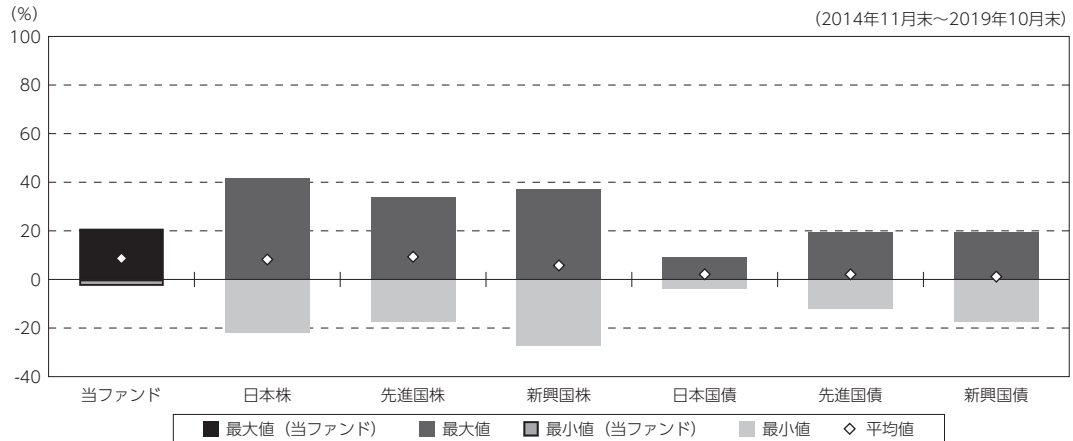
該当事項はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2017年6月2日から2025年11月14日までです。	
運用方針	グローバル・マルチテーマ マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、新興国を含む世界各国の株式（DR（預託証券）を含みます。）を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。 マザーファンド受益証券の組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。 実質組入外貨建て資産については、原則として為替ヘッジ（先進国通貨等による代替ヘッジを含みます。）により為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。ただし、代替ヘッジによっても為替変動リスクの低減の効果が小さいあるいは得られないと判断した通貨については、為替ヘッジを行わない場合があります。	
主要投資対象	野村未来トレンド発見ファンド Aコース（為替ヘッジあり）	マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資する場合があります。
	マザーファンド	新興国を含む世界各国の株式（DR（預託証券）を含みます。）を主要投資対象とします。
運用方法	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として新興国を含む世界各国の株式（DR（預託証券）を含みます。）に実質的に投資を行い、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。	
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等から、基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。	

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	20.9	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△ 2.6	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	8.7	8.2	9.3	5.8	2.1	2.1	1.2

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年11月から2019年10月の5年間(当ファンドは2018年6月から2019年10月)の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

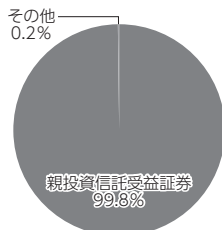
## 組入資産の内容

(2019年11月14日現在)

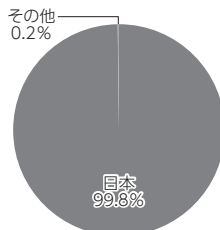
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第3期末
グローバル・マルチテーマ マザーファンド	99.8%
組入銘柄数	1銘柄

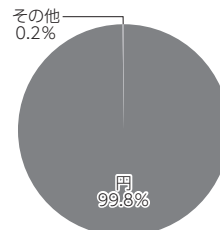
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

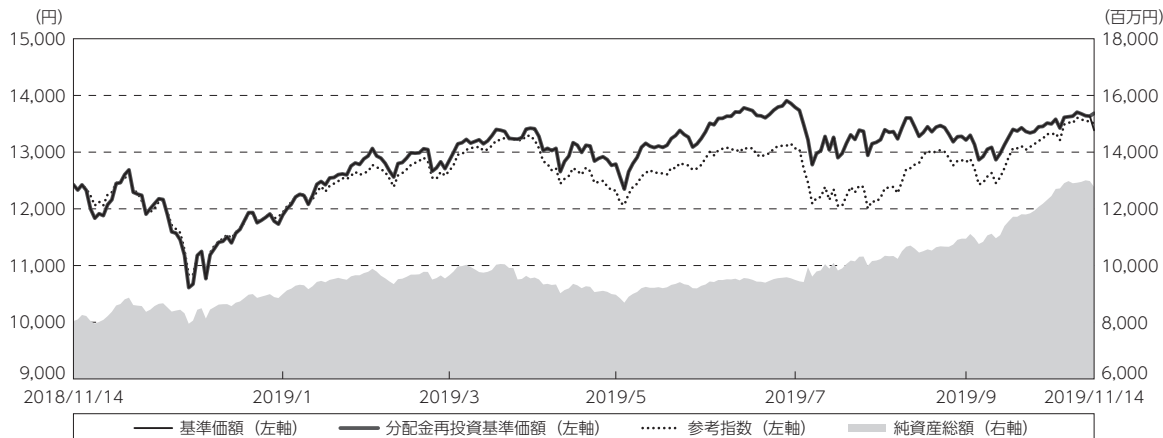
## 純資産等

項目	第3期末
	2019年11月14日
純資産総額	5,308,573,042円
受益権総口数	4,248,053,040口
1万口当たり基準価額	12,496円

(注) 期中における追加設定元本額は3,292,029,154円、同解約元本額は862,259,431円です。

**(Bコース)****運用経過****期中の基準価額等の推移**

(2018年11月15日～2019年11月14日)



期 首：12,425円

期 末：13,385円 (既払分配金(税込み)：300円)

騰落率： 10.1% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2018年11月14日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 参考指数は、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(税引後配当込み・円換算ベース)です。詳細は14ページをご参照ください。参考指数は、作成期首(2018年11月14日)の値が基準価額と同一となるように計算しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

**○基準価額の主な変動要因**

- (下 落) 米中貿易摩擦懸念が再燃したこと、世界経済の動向や今後のFRB(米連邦準備制度理事会)の金融政策に対して不透明感が高まったこと、為替市場で円が上昇(円高)したこと
- (上 昇) 市場予想を上回る米雇用統計の発表や、良好な2018年10-12月期の米企業決算が発表されたこと、中国の景気対策期待が高まったこと、FRBが金融引き締めに慎重な姿勢を表明したこと、トランプ米大統領が中国からの一部輸入品に対する関税の引き上げ延期を表明したこと、為替市場で円が下落(円安)したこと
- (下 落) 米中貿易摩擦の長期化や世界景気の減速などに対する警戒感が高まったこと、為替市場で円が上昇したこと
- (上 昇) 米中貿易協議の再開への期待が高まったこと、対メキシコ関税発動が見送られたこと、FRBの利下げ観測が高まったこと、2019年4-6月期の米企業決算や実質GDP(国内総生産)成長率が市場予想を上回ったこと

(横ばい) トランプ米大統領による対中追加関税の発動表明を受けて米中貿易摩擦の激化が懸念されたこと、9月の米ISM製造業景気指数が市場予想を下回ったこと、一方、米中貿易交渉の進展が期待されたこと、7-9月期の米企業決算が市場予想を上回ったこと

## 1万口当たりの費用明細

(2018年11月15日～2019年11月14日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 220	% 1.705	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率
( 投信会社 )	(106)	(0.825)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
( 販売会社 )	(106)	(0.825)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
( 受託会社 )	( 7 )	(0.055)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売買委託手数料	12	0.094	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 ※ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
( 株 式 )	( 12 )	(0.092)	
( 投資信託証券 )	( 0 )	(0.003)	
(c) 有価証券取引税	3	0.021	(c) 有価証券取引税 = 期中の有価証券取引税 ÷ 期中の平均受益権口数 ※ 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
( 株 式 )	( 2 )	(0.019)	
( 投資信託証券 )	( 0 )	(0.002)	
(d) その他費用	3	0.021	(d) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
( 保管費用 )	( 2 )	(0.017)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
( 監査費用 )	( 0 )	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( その他 )	( 0 )	(0.000)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	238	1.841	
期中の平均基準価額は、12,895円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

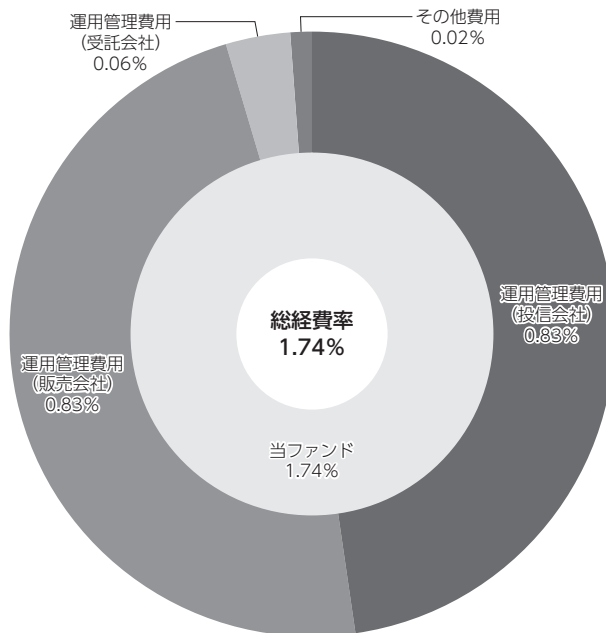
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## (参考情報)

## ○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.74%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

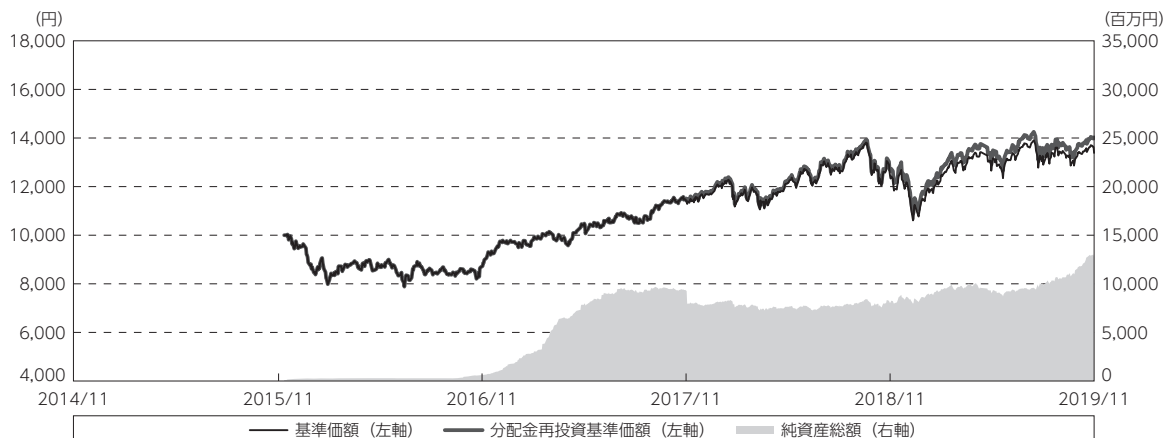
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2014年11月14日～2019年11月14日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。  
 (注) 当ファンドの設定日は2015年11月27日です。

	2015年11月27日 設定日	2016年11月14日 決算日	2017年11月14日 決算日	2018年11月14日 決算日	2019年11月14日 決算日
基準価額 (円)	10,000	8,714	11,414	12,425	13,385
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	100	200	300
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 12.9	32.1	10.6	10.1
参考指数騰落率 (%)	—	△ 11.0	30.9	0.0	8.7
純資産総額 (百万円)	100	606	9,280	8,040	12,773

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2016年11月14日の騰落率は設定当初との比較です。

\*参考指数 (=「MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(税引後配当込み・円換算ベース)」)は、MSCI ACWI (All Country World Index) Index (税引後配当込み・ドルベース)をもとに、当社が独自に円換算したものです。なお、基準価額への反映を考慮して、営業日前日のMSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックスを営業日当日の対顧客電信売買相場仲値で円換算しております。

\*MSCI ACWI (All Country World Index) Index (税引後配当込み・ドルベース)は、MSCIが開発した指数で、同指数の著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(出所) MSCI

**投資環境**

（2018年11月15日～2019年11月14日）

世界の株式市場は、当期初、FRBの早期利上げ打ち止め観測などから上昇して始まったものの、2018年12月上旬に米中貿易摩擦懸念が再燃したことや、米国の利上げペースが市場予想ほど鈍化しないとの観測などから下落に転じました。しかし、2019年に入り、市場予想を上回る米雇用統計が発表されたことや、米中貿易協議の進展への期待が高まったこと、2018年10-12月期の米企業決算が堅調な滑り出しとなったことなどを背景に上昇に転じました。2月以降も対中関税の引き上げ延期やFOMC（米連邦公開市場委員会）で年内利上げ見送りの方針が示されたことなどが支援材料となり上値を迫る展開となりました。その後、5月には米中貿易摩擦の長期化や世界景気の減速への懸念などから下落する場面もありましたが、6月には、米中貿易協議の再開への期待が高まったことや、対メキシコ関税発動が見送られたことなどを背景に再び上昇しました。その後も、2019年4-6月期の米企業決算や実質GDP成長率が市場予想を上回ったことなどから上昇基調が継続しました。しかし、8月上旬にトランプ米大統領による対中追加関税の発動表明などを受けて米中貿易摩擦の激化が懸念されたことなどから下落に転じ、その後は、米中貿易協議の進展が期待されたことや、FRBによる追加利下げなどが好感され上昇する場面もありましたが、9月の米ISM製造業景気指数やユーロ圏製造業PMI（購買担当者景気指数）の低下を受けて世界景気の減速への懸念が高まったことなどから一進一退の動きとなりました。10月中旬より、当期末にかけては、米中貿易協議で部分合意に達したことや、堅調な7-9月期の米企業決算が発表されたことなどを背景に上昇基調となり、当期において世界の株式市場は上昇しました。

一方、為替市場では、米長期金利が低下し日米金利差の縮小が意識されたことや、米中貿易摩擦への警戒感から投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどから、期を通じては米ドル安・円高となりました。

**当ファンドのポートフォリオ**

（2018年11月15日～2019年11月14日）

[グローバル・マルチテーマ マザーファンド]

## ・株式組入比率

期を通じておおむね高位を維持しました。

## ・期中の主な動き

- (1) 業種別配分につきましては、ITセクターなどをオーバーウェイト（参考指数に比べ高めの投資比率）としました。一方、金融セクターなどをアンダーウェイト（参考指数に比べ低めの投資比率）としました。
- (2) テーマ別配分につきましては、「消費の多様化」や「AI（人工知能）・クラウドサービス」などのテーマに関連する銘柄の投資比率を期中平均で高めにしました。前期からの変化としては、「消費の多様化」などのテーマに関連する銘柄の投資比率を引き上げました。
- (3) 為替につきましては、ヘッジ（為替の売り予約）はしておりません。



## [野村未来トレンド発見ファンド Bコース (為替ヘッジなし)]

・主要投資対象である [グローバル・マルチテーマ マザーファンド] 受益証券を期を通じておおむね高位に組み入れました。

### ・為替ヘッジ

当ファンドの運用の基本方針に従い、為替ヘッジは行ないませんでした。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2018年11月15日～2019年11月14日)

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

参考指数としているMSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(税引後配当込み・円換算ベース)の騰落率が8.7%の上昇となったのに対して、基準価額は10.1%の上昇となりました。

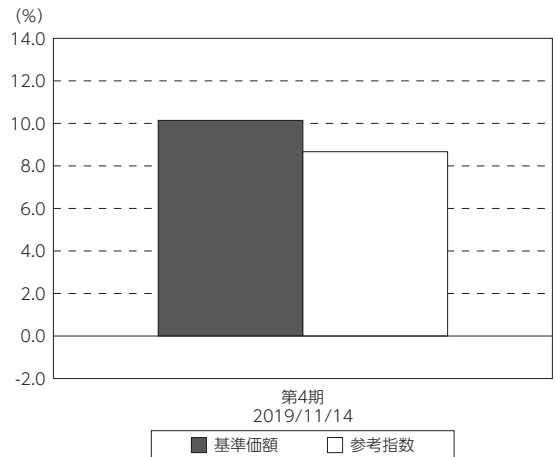
### (主なプラス要因)

- ①株価騰落率が参考指数を上回ったITセクターをオーバーウェイトとしていたこと
- ②世界的な非現金決済の拡大や新興国における消費の拡大などを背景に、長期的な成長を期待できると判断しオーバーウェイトとしていた米国のソフトウェア株や情報技術サービス株などの株価騰落率が参考指数を上回ったこと

### (主なマイナス要因)

- ①株価騰落率が参考指数を下回ったヘルスケアセクターをオーバーウェイトとしていたこと
- ②世界的な高齢化の進展を背景に中長期的な成長が期待でき、継続して業界平均を上回る収益力を達成していることからオーバーウェイトとしていた米国のヘルスケア・プロバイダー/ヘルスケア・サービス株などの株価騰落率が参考指数を下回ったこと

基準価額と参考指数の対比 (期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) 参考指数は、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(税引後配当込み・円換算ベース)です。

## 分配金

（2018年11月15日～2019年11月14日）

- (1) 収益分配金については、基準価額水準等を勘案し、1万口当たり300円とさせていただきます。  
 (2) 留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。

### ○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり・税込み）

項 目	第 4 期	
	2018年11月15日～2019年11月14日	
当期分配金	300	
（対基準価額比率）	2.192%	
当期の収益	300	
当期の収益以外	-	
翌期繰越分配対象額	3,384	

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### [グローバル・マルチテーマ マザーファンド]

#### ・投資環境

米国経済は、7-9月期の実質GDP成長率が前期比年率+1.9%と、市場予想を上回り底堅さを見せました。個人消費が引き続き堅調であることに加え、金利低下を受けて住宅投資が前期比でプラス成長に転じています。米中貿易協議については、不透明感の払拭には時間を要すると見られます。10月末に3会合連続の利下げを決めたFRBは今後も慎重に金融政策を運営すると見込まれます。

#### ・運用方針

グローバルな視点で投資魅力のある中長期の成長テーマを複数選定し、関連する銘柄群を中心に成長性に着目した銘柄選択を行ないます。成長テーマの選定は、「新たな価値の創造」、「新興国へのトレンドの広まり」、「社会構造の変化」の観点から選定することを基本とします。成長テーマは必要に応じて入れ替えを行ないます。また、市場環境やマクロ経済動向も加味し、組入銘柄および組入比率、その結果としての各成長テーマ毎の投資比率を決定します。

AI、ロボット、IoT（モノのインターネット）、自動運転、クラウドなど高い成長が期待されるテーマや、アウトソーシング、消費、教育など安定的な成長が期待される成長テーマにも注目してまいります。今後も政治情勢や金利動向なども考慮しつつ、「中長期成長期待への積極的投資」と「短期的な株式市場環境への対応」をバランスよく運用してまいります。

## [野村未来トレンド発見ファンド Bコース（為替ヘッジなし）]

主要投資対象である [グローバル・マルチテーマ マザーファンド] 受益証券を高位に組み入れ、実質組入外貨建資産については為替ヘッジを行なわない方針です。

今後とも、引き続きご愛顧を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

## お知らせ

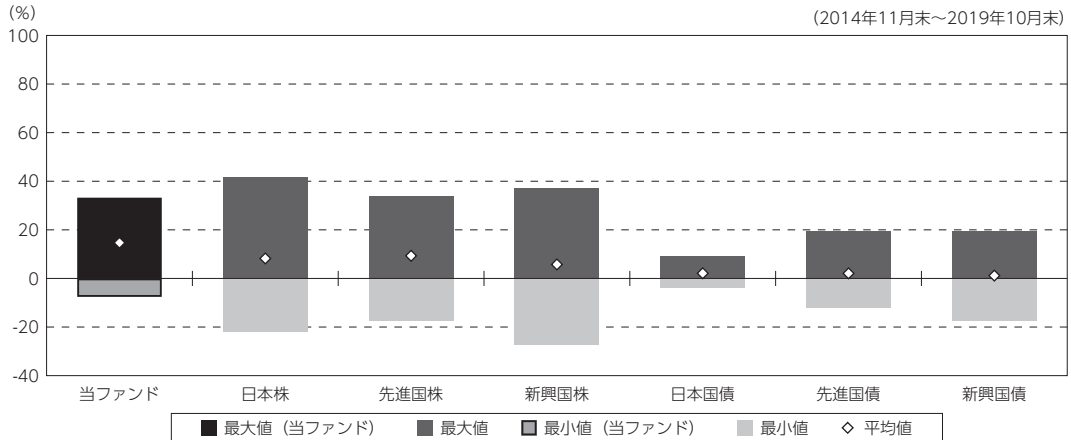
該当事項はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2015年11月27日から2025年11月14日までです。	
運用方針	グローバル・マルチテーマ マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、新興国を含む世界各国の株式（DR（預託証券）を含みます。）を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。 マザーファンド受益証券の組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。 実質組入外貨建て資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主要投資対象	野村未来トレンド発見ファンド Bコース（為替ヘッジなし）	マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資する場合があります。
	マザーファンド	新興国を含む世界各国の株式（DR（預託証券）を含みます。）を主要投資対象とします。
運用方法	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として新興国を含む世界各国の株式（DR（預託証券）を含みます。）に実質的に投資を行い、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。	
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等から、基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。	

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	33.2	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△ 7.6	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	14.7	8.2	9.3	5.8	2.1	2.1	1.2

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年11月から2019年10月の5年間(当ファンドは2016年11月から2019年10月)の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

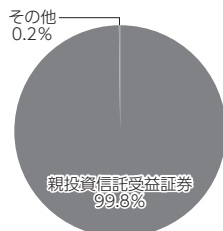
## 組入資産の内容

(2019年11月14日現在)

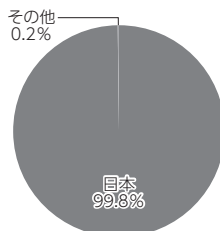
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第4期末
グローバル・マルチテーマ マザーファンド	99.8%
組入銘柄数	1銘柄

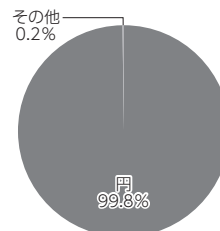
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 純資産等

項目	第4期末
	2019年11月14日
純資産総額	12,773,091,498円
受益権総口数	9,543,108,719口
1万口当たり基準価額	13,385円

(注) 期中における追加設定元本額は5,811,961,944円、同解約元本額は2,740,419,246円です。

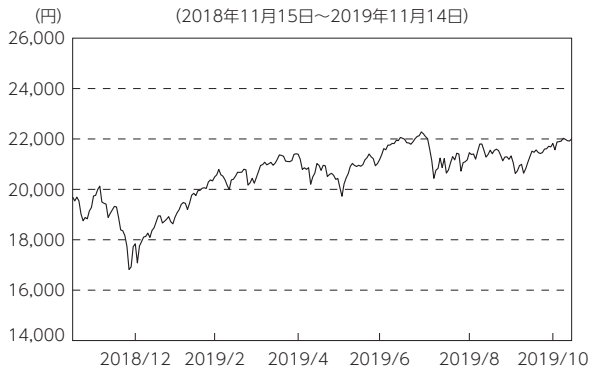
## 組入上位ファンドの概要

## グローバル・マルチテーマ マザーファンド

運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

## 【基準価額の推移】

(2018年11月15日～2019年11月14日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2018年11月15日～2019年11月14日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (株 式 券) (投 資 信 託 証 券)	20 (20) (1)	0.099 (0.096) (0.003)
(b) 有価証券取引税 (株 式 券) (投 資 信 託 証 券)	4 (4) (0)	0.022 (0.019) (0.002)
(c) その他費用 (保 管 費 用) (そ の 他)	4 (4) (0)	0.018 (0.018) (0.000)
合 計	28	0.139

期中の平均基準価額は、20,585円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）

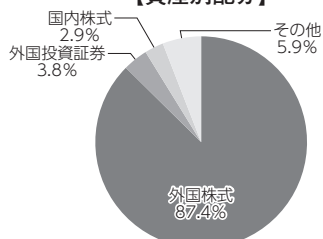
期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 【組入上位10銘柄】

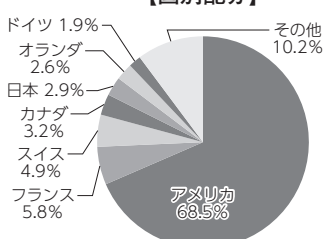
(2019年11月14日現在)

銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国(地域)	比率
				%
1 MICROSOFT CORP	ソフトウェア	米ドル	アメリカ	4.3
2 AMAZON.COM INC	インターネット販売・通信販売	米ドル	アメリカ	3.8
3 DISNEY (WALT) CO	娯楽	米ドル	アメリカ	3.7
4 ROSS STORES INC	専門小売り	米ドル	アメリカ	3.4
5 HONEYWELL INTERNATIONAL INC	コングロマリット	米ドル	アメリカ	2.9
6 AUTOMATIC DATA PROCESS	情報技術サービス	米ドル	アメリカ	2.9
7 ASML HOLDING NV	半導体・半導体製造装置	ユーロ	オランダ	2.6
8 COSTCO WHOLESALE CORPORATION	食品・生活必需品小売り	米ドル	アメリカ	2.6
9 WATERS CORP	ライフサイエンス・ツール/サービス	米ドル	アメリカ	2.4
10 ADOBE INC	ソフトウェア	米ドル	アメリカ	2.3
組入銘柄数		58銘柄		

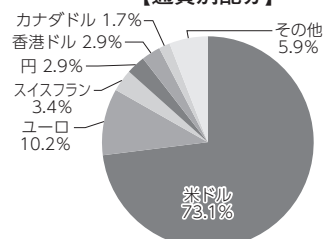
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国(地域)および国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

### ○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、㈱東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、㈱東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、㈱東京証券取引所は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

### ○MSCI-KOKUSAI指数（配当込み、円ベース）

### ○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI指数（配当込み、円ベース）、MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

### ○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債の知的財産権は、野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI国債を用いて行われる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。

### ○FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

### ○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

「JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）」（ここでは「指数」とよびます）についてここに提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価値や値段を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスを法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JPMorgan Chase & Co. 及びその子会社（以下、JPM）がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPMやその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持って、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受、プレースメント、エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。

米国のJ.P. Morgan Securities LLC（ここでは「JPMSLLC」と呼びます）（「指数スポンサー」）は、指数に関する証券、金融商品または取引（ここでは「プロダクト」と呼びます）についての援助、保障または販売促進を行いません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指数に連動させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指数スポンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指数スポンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指数は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指数に付随する情報について保証するものではありません。指数は指数スポンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指数スポンサーに帰属します。

JPMSLLCはNASD, NYSE, SIPCの会員です。JPMorganはJP Morgan Chase Bank, NA, JPSI, J.P. Morgan Securities PLC., またはその関係会社が投資銀行業務を行う際に使用する名称です。

（出所：株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC 他）

### <お申し込み時の留意点>

販売会社の営業日であってもお申し込みの受付ができない日（以下「申込不可日」といいます。）があります。

お申し込みの際には、これらの申込不可日に該当する日をご確認のうえ、お申し込みいただきますようよろしくお願いいたします。

(2019年11月14日現在)

年 月	日
2019年11月	28
12月	25、26

※2019年12月までに該当する「申込不可日」を現時点で認識しうる情報をもとに作成しておりますが、諸事情等により突然変更される場合があります。

したがって、お申し込みにあたってはその点についても十分ご注意ください。また、諸事情等による申込不可日の変更は、販売会社に連絡いたしますので、お問い合わせ下さい。

なお、弊社ホームページ (<http://www.nomura-am.co.jp/>) にも掲載いたしております。